浮遊感への驚きと感動！ 熱気球体験

べつかい議会だより

第116号
2026年2月

特集 地域めぐり懇談会 …… 2
皆さんの声をどう生かした？ …… 5
酪農畜産におけるカーボンニュートラルへの取り組み …… 6
別海高等学校寄宿施設の今後に注視！ …… 7
地域の声を議会へ …… 8
一般会計過去最高額 425億1690万円 …… 9
一般質問（田村・中村・伊勢・髙橋・吉田・宮越・市川の７議員） …… 10
議会活動アラカルト …… 14
連載 「Let's go！ 議会！」<第４回> …… 15
シリーズ おじゃましま～す 空から見る、わたしたちの別海 …… 16

北海道別海町議会

地域めぐり懇談会

あなたの声が　別海町を動かす！

11月27日・12月3日の２日間、町民の皆さんの声を町政に反映させるため、上春別・尾岱沼・西春別・別海市街の４地区で「地域めぐり懇談会」を開催しました。その中で寄せられた、主なご意見をお知らせいたします。

議員定数・議員報酬

- 別海町の広さを考え、削減は慎重に。
- 人口減少を踏まえ、１～３人削減が妥当との声が複数。
- 報酬は活動量に見合い妥当、または引き上げてもよい。
- 結論には賛成だが、他町村比較には疑問がある。削減ありきではない。

ふるさと交流館

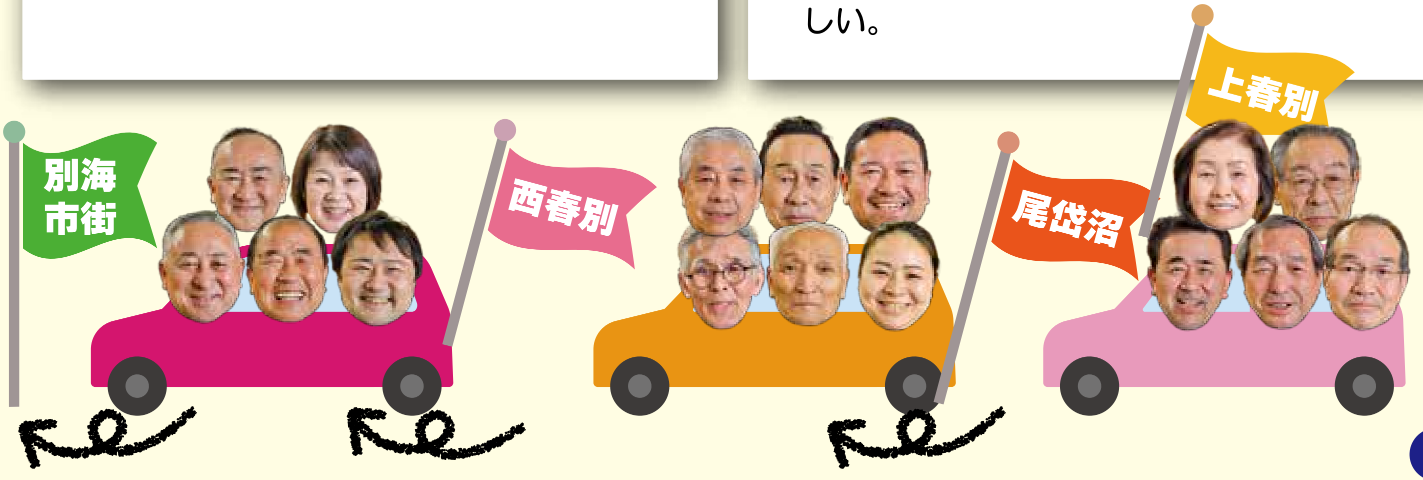
- 営業時間やキャンピングカーの受け入れなど運営面の見直し。
- オフシーズンの収益確保策が必要。
- 周辺環境整備や町内各地域の声の反映を求める。
- 観光拠点としてランドマーク化を期待。

ふるさと納税

- 海産物不漁により返礼品の安定供給に不安。
- 品質管理の徹底と事業者への指導強化を。
- 漁業資源の確保・育成への重点的な活用を。
- 基金の使途が分かりにくい。
- 海産物以外の返礼品を増やすため、事業者支援の強化を。

OTOMONO

- 制度を知らない人が多く、周知不足。
- 高齢者向けの配慮・支援を強化してほしい。
- 市街地以外では利用しづらい。
- アプリの登録方法が分からない。
- 飲食店以外の店舗でも使えるようにしてほしい。



道路・環境整備

●海岸浸食対策を道や国へ要望。
●舗装道路の老朽化が深刻。
●計根別飛行場利用に伴う、防音対策区域の拡大。

産業振興

●漁具購入への補助金拡充。
●新たな魚種育成への挑戦。
●移住者の飲食店開業支援、空き店舗活用。
●産業の多角化が必要。

高齢者支援・交通

●車がないと通院が困難。
●ハイヤー不足で利用券が使えない。
●バス・ハイヤー共通利用券は好評だが再交付の遅れを改善してほしい。
●免許返納後の移動手段が不安。
●ライドシェアを導入してほしい。

子ども・子育て支援

●放課後子ども教室の開始は高く評価。
●発熱時の医療体制が利用しづらい。
●保育園給食の完全無償化を求める。
●中学校区での部活動送迎バスが欲しい。
●保育士不足への対応が必要。
●出産・入園などの子育て支援を希望する。

地域おこし協力隊

●活動内容や成果が伝わりにくい。
●任期満了後の定住支援を強化してほしい。
●地域住民との交流の場を設けてほしい。

その他

●役場職員の業務量に偏りがある。
●役場のメール返信を早くしてほしい。
●ごみ分別ルールが分かりにくい。
●避難所の現場対応の応援体制を強化してほしい。

いただいたご意見は、今後の議会活動や政策提言に生かしていきます。

その他のご意見はこちらから

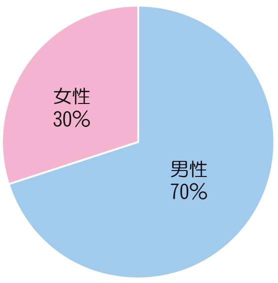
地域めぐり懇談会に大勢の参加ありがとうございました

今年は、上春別・尾岱沼・西春別・別海市街の4地区で、数々の貴重なご意見をいただきました。

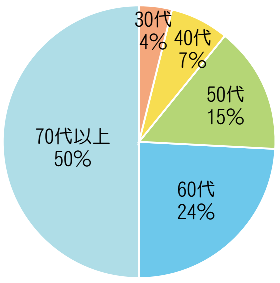
参加者アンケート調査の概要

実　施　場　所		参加者数	アンケート回答数
11月27日	上春別地域センター	15人	12人（80%）
	尾岱沼地域センターきらくる	10人	7人（70%）
12月３日	西公民館	9人	7人（78%）
	別海町交流館「ぷらと」	20人	19人（95%）
合　　　計		54人	45人（83%）

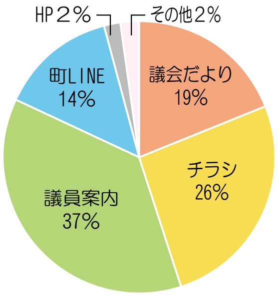
性　　別



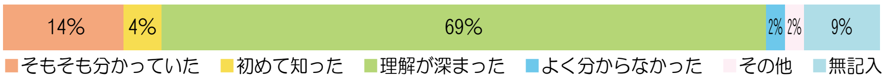
年　　代



参加のきっかけ（複数回答あり）



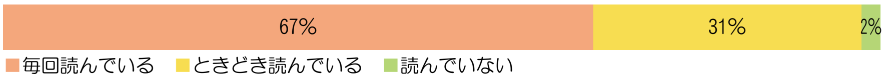
委員会活動



全体会意見交換

分会意見交換

議会だより



議会だよりの改善

今後の意見交換の場

地域めぐり懇談会でいただいた主なご意見

地域めぐり懇談会に関すること

- なかなか若い方が参加できないので、幅広い年代の人と交流できる場を少しずつでも設けてください。
- 顔の見える対面もよいが、ＬＩＮＥなどで参加（時間を気にせず）できれば、広く意見があるのでは。
- もう少し地域を細かく分けて開催してほしい。年１回ではなく回数を増やしてほしい。
- 皆さんがどう考えているか、議員さんのアドバイスや町と検討すると話をしていただけたことで、地域の皆さんもいろいろ意見が出しやすかった。
  こういう場で議員さんに伝えられることで町が変わる！と感じています。もっと話せる場があると良いと思っています。
  このアンケートもQRとかで答えられるととても助かります。

議会に関すること

- 人口が減る一方で、出産がしやすいのか？病院はかかりやすいのか？日常の声は届いていないのであれば怠慢（ゴメンナサイ）では？議員定数の問題ではないと思います。意見を聞いたら具体的に動いてください。

町に関すること

- 他市町村と比べてもっとできると思うことはやっていけばいい。他市町村でやっていないこともどんどんやってほしいです。別海町らしさを追求してより良い町になってほしいと思います。
- 福祉牛乳→全町民に牛乳券で配ってはどうでしょう。高齢者は週２回なかなか取りに行けない。券だと店で買える。

その他

- 初めて地域めぐり懇談会に参加させていただきました。ありがとうございます。

皆さんの声をどう生かした?

毎年開催している**地域めぐり懇談会**でいただいた**声**はどうなった？
いただいた主なご意見に対し、議会の対応をお知らせします。

皆さんの声を聞く

→

委員会で声を集約

- 総務産業常任委員会
  - ふるさと交流館
  - 町の特産品の販売
    など
- 福祉文教常任委員会
  - 高齢者の足の確保
  - 医師の確保　など

→

委員会で議論

- 検討・調査
- 行政への要望
- 行政へ確認

声　ふるさと交流館 宿泊・レストランの再開を 道の駅の機能を

議会での対応

- 「宿泊・レストランの再開に向け準備する」との町長行政執行方針
  →各議員が一般質問
- 委員会にて進捗状況を調査中

声　運転免許を返納したいが 生活の移動に困る

議会での対応

- 委員会で高齢者の移動について調査
  →地域住民の力を最大限に活用した送迎事業（案）の説明を受ける
- 町民の足の確保について、各議員が一般質問

声　町の特産品がどこで買えるかと問い合わせが多い

議会での対応

- 意見を「議会だより」に掲載
- 各議員が一般質問
  →道の駅おだいとうで販売開始
  →別海町交流館ぷらとに自動販売機設置

声　医師の退職が続き不安 診療所を存続してほしい

議会での対応

- 委員会調査後、検証・協議
  →委員会の総意として一般質問
  「医師確保に動いて、診療所を運営していける体制をとるべく努力」（町長答弁）
  →西春別駅前と尾岱沼診療所に新医師着任

委員長 今西 和雄　副委員長 宮越 正人　委員 戸田 憲悦・佐藤 初雄・松原 政勝・小椋 哲也・髙橋眞結美・市川 聖母

酪農畜産におけるカーボンニュートラルへの取り組み

バイオマス活用の現状と課題

令和７年４月「第２次別海町バイオマス産業都市構想」が策定され、牛ふん尿の約15％がバイオガス発電に活用されています。

新規事業「バイオマス利活用推進事業」が始まり、運搬費用の助成が行われていますが、発酵槽の不具合により発電量が減少しました。

助成の効果で、消化液利用希望者は増えていますが、課題は残ります。

委員からは、酪農畜産分野での炭素排出量の見える化や、ＫＰＩの設定による投資効果の明確化、中長期的な計画策定の必要性が指摘されました。

別海バイオガス発電株式会社

より良いふるさと交流館整備に向けて

宿泊事業者との意見交換会

担当部署職員同席の元、事業者の視点ならではの活発な意見交換会となりました。

市街地と尾岱沼の需要特性、客室不足の現状、他町の乳業メーカー施設建設による特需後の対策、冬季閑散期対策など、多岐にわたる意見が交わされました。

施設機能については、宴会場の復活、地場産品の購買ニーズに応える仕組みの構築が示唆されました。

さらに、地域のランドマークとなる施設の必要性が強調され、その体験価値の向上が求められています。

経営面では黒字運営が必須であり、設計段階からの運営者参画、人材確保・育成の重要性が強調されました。

スポーツ合宿受け入れの課題、日曜日の飲食サービスの必要性も議論されました。

ギカイの目

ゼロカーボンシティ宣言を受け

２０５０年の地域カーボンニュートラル実現には、長期的なロードマップが必要です。

現在、炭素排出状況の把握が担当部署で分散しているため、施策のインパクトやコストパフォーマンスが不明瞭です。

中長期の政策研究テーマとして、基礎統計整備と費用対効果の検討を進める必要があります。

現段階で委員会調査は終了し、今後は新しい枠組みで、政策研究を通じての検討が求められます。

意見交換会を終えて

町が進めているふるさと交流館再整備は、町全体繁栄の一環として、共存共栄を目指すものです。

今後も、町民の意見を聞きながら、検証・議論を重ね、調査を継続していきます。

福祉文教常任委員会の活動報告

委員長 外山 浩司　副委員長 横田 保江　委員 中村 忠士・田村 秀男・貞宗 拓雄・伊勢　徹・吉田 和行

別海高等学校寄宿施設の今後に注視！

寄宿施設の協定期間が満了

別海高等学校の寄宿施設は、10年間の使用期間を定めた協定書の期間が、令和10年3月末で満了します。

現地調査を含む調査の結果、事業者の意向により、協定書の更新を行わないことが確認されました。

残り2年間で新たな事業者の模索や、行政による寄宿施設の借り上げなども含め、継続に向けた検討を行っていく、との説明がありました。

寄宿施設は、新生活が始まる生徒の受け入れに欠かせない重要な施設であり、同時に別海高等学校の魅力の一つでもあります。

生徒が通いたくなる別海高等学校の魅力化に向けた取り組みも含めて、調査を継続していきます。

別海高等学校寄宿施設

サービス充実のこども家庭センター

地域連携で実現する切れ目のない子育て支援

こども家庭センターは、令和7年4月から運用を開始し、全ての妊産婦および子どもとその保護者を対象として、切れ目のない支援を行っています。町内の方はもちろん、里帰りされた妊産婦の希望者へのサポートも行っています。

これまで、保健センターと福祉課で行っていた相談窓口を一本化し、町立別海病院、教育委員会や福祉課、母子健康センターをはじめとした地域の関係機関と連携し、さまざまなニーズへの対応を目指したサポートプランを立案しています。

このサポートプランは介護保険制度におけるケアプランのように、対象者の意見を反映するものです。

今後もその運用状況について、継続的な把握と検証をしていきます。

ギカイの目

2年で決まる寄宿施設の未来

別海高等学校の魅力の一つでもあり、生徒の受け入れに欠かせない寄宿施設を継続させるため、残り2年余りで結論を出さなくてはなりません。

民営、町営問わず継続可能な寄宿施設の存続方法について継続調査していきます。

窓口は一つ！
こども家庭センター

今後、こども家庭センターが保護者にとって、子育てや家庭の困りごとを相談できる、利用しやすい窓口になることを願っています。

委員会では、今後の運用状況や検証を継続調査していきます。

代表委員 小椋 哲也　副代表委員 横田 保江　委員 戸田 憲悦・佐藤 初雄・中村 忠士・今西 和雄・田村 秀男・貞宗 拓雄

地域の声を議会へ

上風連連合町内会と、教育や酪農、暮らしの課題について意見交換会を行いました。

広聴小委員会は、町民の皆さんの声を議会活動に生かすため、従来の「地域めぐり懇談会」に加え、連合町内会単位での小規模な意見交換を試行しています。

今回はその第1回目として、上風連連合町内会の皆さんと意見交換を行いました。

教育・保育の不安

中西別・西春別と学校の閉校が続く中、上風連でも今後への不安が語られました。

別海市街地まで約30キロの地域もあり、統合となった場合の送迎や、通学の負担は大きいとの声がありました。

へき地保育園が満3歳児からの受け入れで、未満児家庭は、市街地まで通う必要があることも課題としてあげられました。

学校がなくなることで、親同士のつながりや、地域行事の担い手が薄れるのでは、という懸念も共有されました。

地域の声をどう届けるか

地域選出議員が不在となって以降、要望書の提出や、町長との面談で声を届けている一方、「要望がどう扱われ、返答がどう返ってくるかが分かりにくい」との指摘がありました。

酪農の将来と災害備え

離農に伴う農地の受け皿不足、耕作放棄の懸念が示されました。

スマート農業の実現へ向け、インフラ整備を含めた実証など、具体的な取り組みを求める声もありました。

また、大規模地震に備え、水と電力確保の重要性、橋や道路の寸断を想定したブロック分け、井戸・取水の検討、点検表や訓練の必要性が話題となりました。

暮らしの基盤

外国人労働者も地域行事に参加し、少しずつ地域に溶け込んでいるとの声がありました。

Aコープやスタンドは、赤字でも生活インフラ・交流拠点として「残してほしい」と強い要望がありました。

ヒグマの目撃情報が多い一方で、今は被害が出ていません。しかし、被害前の通報・対策の大切さも確認されました。

委員会調査の方向

広聴小委員会では、いただいた意見を関係委員会などとも共有し、議会としての調査・提案につなげます。

次回以降も、テーマを決めすぎず、率直な声を伺う機会を積極的に設けていきます。

今後は広聴小委員会の情報発信も充実させ、より身近に感じていただけるよう工夫していきます。

一般会計 過去最高額
425億1690万円

12月補正予算が、予算決算審査特別委員会（横田保江委員長、伊勢徹副委員長）で審査され、本会議で可決されました。

ふるさと応援制度推進事業に50億円を追加し総額200億円、域内循環拠点維持・確保緊急対策事業に4000万円を追加し、総額3億4000万円などの新規・追加事業も含めた補正内容でした。

以下、主な事業を抜粋して紹介します。

その他、令和6年度各会計決算認定、教育長の再任同意、公の施設に係る指定管理者の指定、意見書採択など、34件の議案を全会一致で可決しました。

なお、別海町青少年問題協議会条例の一部改正は、付帯意見を付して議決されました。

12月定例会

2000万円 アスリート支援事業 新規

・町内出身オリンピック出場選手を現地応援する人への渡航費などの補助

4000万円 域内循環拠点維持・確保緊急対策事業 追加

・水産加工の補助4件

・旧別海中学校を利活用した食肉加工、惣菜製造の補助2件

3300万円 老人保健施設整備事業 追加

・老人保健施設すこやか療養室のエアコン設置（工事期間）令和8年2月～7月中旬

7800万円 秋サケ漁業持続化支援事業 新規

・根室管内サケマス増殖事業協会負担金の全額支援

・資源確保の取り組みと操業継続確保に対する支援（別海・野付漁協）

意見書を採択

・緊急銃猟制度などヒグマ対策のさらなる推進を求める意見書

・リハビリテーション専門職（理学療法士、作業療法士、言語聴覚士）の確保や処遇改善を求める意見書

提出者 外山 浩司

可決

・北方領土問題の解決促進等を求める意見書

提出者 松原 政勝

可決

1月臨時会

2億9856万円 物価高騰対応重点支援事業 新規

・町民1人2万円の商品券配布

4486万円 物価高騰対応子育て応援手当支援事業 新規

・児童手当対象世帯、子ども1人2万円給付（0歳から18歳まで）

3040万円 アスリート支援事業 追加

・オリンピック出場選手の関係者へ追加支援と現地応援する町民への支援

質問　ＡＩは、町民の味方か？利活用方法を問う

たむらひでお
田村秀男議員

質問　**学校教育や家庭教育で、「ＡＩが全て正しいわけではない」という考え方をどのように啓発されるのか。**
また、生成ＡＩを活用した学びの指導体制は。

答弁　啓発は、生成ＡＩがさらに変化していくことも念頭に、学校現場が混乱したり、不安を感じないよう、段階的な運用を示していく。
指導体制は、教員の研修機会の提供や外部人材の活用など、多方面から教育環境の充実に努めたい。
また、生成ＡＩは間違ったことも本当のように話す。子どもたちがＡＩと適切に向き合って、安全に活用できる環境づくりを、家庭と一緒に考えていきたい。

質問　**行政サービスにおけるＡＩの位置付けと費用対効果をどう捉えているか。**

答弁　本町では、令和５年８月から生成ＡＩを導入しており、将来の行政経営を支える投資として位置付けたい。
また、データの機密性確保と、職員のＡＩリテラシー向上は必要不可欠だ。
議員ご提案のように、各課にＡＩ活用を担う職員を配置する体制へ発展させ、安全かつ効果的にＡＩを活用したい。
費用対効果は、目に見える効果と無形の効果を総合的に考える。
業務時間削減効果システムでは、月平均約４００時間の短縮が確認されている。

質問　別海町の「男女格差の解消」は進んでいるか

なかむらただし
中村忠士議員

質問　**日本の「ジェンダーギャップ」は１４８カ国中１１８位で低位に留まっている。別海町の男女格差の解消について聞く。**
町の審議会などへの女性の登用は何人中何人で比率は？

答弁　調査対象35団体の委員総数３５９人、女性委員は１０８人で比率30・１％。

質問　**防災会議女性委員は？**

答弁　18人中女性は０人。

質問　**避難所の運営責任者集団の中の女性比率は？**

答弁　自主防災組織の役員総数４６１人に対し、女性は40人で比率は約９％。

質問　**政府は、「２０２０年代の早期に指導的地位に占める女性の割合が30％程度となるよう取り組みを進める」としている。本町の役場職員管理職の女性比率は？**

答弁　管理職全体で１０７人。うち女性は26人で女性比率は24・３％。目標とする30％には届いていない。

太陽光発電は再生可能エネルギーの代表格で大きな期待がかけられているが、町として何らかの規制・ルール化をする考えはあるか？

答弁　早急な対応が必要な案件には臨機応変に対処していかなければならない。同時に、生産地としての景観や世界観をいかにして守り抜くか、一定の方針とルールが必要であると認識している。条例や景観計画などの策定を進めるため、新年度予算に計上すべく準備している。

詳細はこちらからご覧になれます

議員７人による一般質問

質問 別海町の地域おこし協力隊の現状と今後について

伊勢（いせ） 徹（とおる）議員

質問　本町の本年度の地域おこし協力隊員の採用状況は。

答弁　人口政策分野に４人。まちづくり分野に２人。産業振興分野に４人。その他の分野で６人。合計16人。

質問　本町の通算採用者数、退任者数、退任者数のうち定住者数と起業者数は。

答弁　83人を採用、そのうち13人が退任し、定住者は４人。起業者はいない。

質問　協力隊カフェなどの活動拠点の整備、展開の現状は。

答弁　来年度中に、旧消防庁舎の隣の空き店舗に、サテライトオフィスを整備する準備を進めている。

質問　ふるさと納税大学院の特徴を具体的に。

答弁　別海町を仮想の大学院として、人材育成や人材発掘に取り組むことが特徴である。

質問　100人以上の隊員の採用を目指すための、今後の対策は。

答弁　マネジメント能力の高い人材を抜てきして、チームの自主性で問題解決できるように注力している。

質問　任期満了後の隊員に定住してもらうための、本町の力点は。

答弁　１人でも多くの隊員の定着につながるよう、今後も創意工夫を続ける。

質問 観光関連事業の課題解決とさらなる高みへの戦略は

髙橋眞結美（たかはし まゆみ）議員

質問　観光関連事業者の事業継続や承継は、どのような考えで、どのような取り組みが行われているのか。

答弁　事業者が継続できる取り組みと、担い手の育成・確保に向けた多角的な取り組みが重要と考える。

①資金面支援②新規参入・事業転換での支援③人材確保・担い手支援④相談・連携の充実の４つの柱で取り組んでいる。

質問　観光客のごみ対策について、町の基本的な考え方は。

答弁　生活ごみは持ち帰りを原則とし、事業や観光施設内で発生するごみは、事業系ごみとして処理を行う。キャンプ場、ネイチャーセンターは、町指定ごみ袋を販売し、回収場所への廃棄を案内している。

質問　ネイチャーセンターのごみ袋販売の情報発信は。

答弁　発信はしていないが、利用者に口頭で周知している。

質問　旅行者誘客に関し、インターネットを活用する場合、情報の新鮮・正確さ、コンプライアンスの強化は。

答弁　別海町観光協会と町で連携の上、さらなる磨き上げに取り組んでいく。

質問　別海町観光の最大の強みは何か。

答弁　唯一無二の景観と、雄大な自然が育む豊かな食である。

詳細はこちらからご覧になれます

議員７人による一般質問

質問 メガソーラー建設と町の姿勢

よしだ かずゆき
吉田和行議員

質問　町内におけるメガソーラー建設について、太陽光発電事業者からの問い合わせ状況と、農地の利用実態は。

答弁　太陽光発電事業者からは、設置予定地が農地法や農業振興地域の整備に関する法律の対象となるかについて、月に1件程度、年間でおおむね5件程度の問い合わせがある。

農地の売買や利用には農業委員会の許可が必要で、農業者以外が取得することは相続などを除きできず、農地は原則として農業利用が前提である。

質問　農地を農業用途以外に利用する手段として、営農型太陽光発電について町の認識はどうか。

答弁　本町では、全域が農業振興地域に指定されていて、農地以外の転用は原則認められていない。

ただ、容易に撤去できる構造であることや、農業を継続し、市町村平均の※反収の8割以上を確保することなどの要件を満たせば、農地や農用地区域内でも営農型太陽光発電施設の設置は可能である。

可否は個別に判断していく。

※反収…10アール当たりの収量

質問　野付半島・風蓮湖周辺での開発に対する考えは。

答弁　湿地や鳥類への影響など多くの懸念があり、町民の大切な財産である地域資源を守るため、適切なガイドラインの策定が必要と認識している。

質問 ホッカイシマエビなど希少魚種の増養殖については

みやこしまさと
宮越正人議員

質問　禁漁とする状況を町はどのように感じているか。

原因特定のため、海洋環境などの専門的知見を持った協力隊員の配置検討は。

答弁　持続可能な漁業を維持するために、資源管理は重要と認識している。伝統漁法を継承するためにも、関係者と協議を続け、町としても必要な支援をしていく。

提案のあった水産関係の増養殖に知見を持った地域おこし協力隊員の活用も、課題解決に向けた有効的手段の一つと考える。

質問　打瀬舟による漁法の継承や、エビ漁に従事する後継者対策は。

答弁　北海道遺産に登録されるなど、観光資源としても貴重であり、本町にとって欠くことのできない伝統文化だと考えている。

後継者対策については、町として「漁業後継者就業支援事業」を実施している。

今後も、実効性ある後継者対策を推進し、本町水産業の「明るい未来の実現」に向けて、全力で取り組んでいく。

質問　増養殖事業に、町として積極的に関与していく考えはあるか。その予算の計上も必要となるが。

答弁　漁業者の未来に向けた取り組みについて、漁業者・漁協・町の三者がタッグを組んで、水産資源を作り上げていきたい。財政面などさまざまな側面から積極的に支援していく。

議員７人による一般質問

質問 持続可能な町の交通へ一歩

いちかわ まりあ
市川聖母議員

質問 地域めぐり懇談会などでも交通に関する意見が多く、移動手段の確保は町民生活に直結する重要な課題だと考えるが、どのような認識か。

答弁 高齢者や交通弱者の移動手段の確保は、行政上の最重要課題と受け止めている。

地域の声を踏まえ、対応が必要と認識している。

質問 高齢化の進行や世帯構成の変化、交通空白地の拡大により、移動手段の確保が大きな課題となっている。

今後、取り組みを進める上で、住民の意見をどのように反映させていくのか。

答弁 地域公共交通計画の策定は2年間を想定している。

1年目に町民アンケートを実施し、2年目に法定協議会を開催する。協議会には町内会代表など住民代表にも参加してもらい、意見を反映させる。

質問 計画策定までの間、現在行っている交通支援について、どう対応していくのか。

答弁 現在行っている外出支援サービスについて、広報で情報提供を行ってきた。

今後も周知を継続し、新たに取り組める手段があれば研究を進めていく。

質問 尾岱沼地区で住民主体のライドシェアの動きがあるが、どのように受け止めているのか。

答弁 地域の交通課題を住民自身で解決しようとする取り組みとして評価している。

今後の施策を検討する上で参考にしていく。

別海高等学校 農業クラブ
持続可能な農業と地域活性化への挑戦

校内実績発表会、農家委託実習・インターンシップ報告会に参加してきました。

「Beccow Farm（ベッコウファーム）」と題し、地域資源活用班は、酪農と畑作の複合を目指す取り組みを発表。炭素循環農法に着目し、環境に配慮した作物栽培への挑戦結果を報告しました。

乳製品加工班は、キッチンカーを活用した「別海の恵みを届ける」研究内容を発表。

酪農の魅力を発信し、農業従事者の増加と町の活性化を目指す熱意が伝わってきました。

発表では、実践内容や成果とともに課題も提示され、持続可能な農業の実現と酪農の可能性を広げ、人と地域をつなぐクラブ員の想いが溢れていました。

その他、1年生による発表や全国大会報告、農家委託実習・インターンシップ報告も行われました。

今後のクラブ員の活躍に期待が高まります。

（文責　髙橋委員）

早期の課題解決が求められる
～北方領土返還要求アピール行進参加～

議長　西原　浩

日比谷公園周辺から東京駅周辺までの約2キロを、全国各地から総勢500人の方が参加し、全国47都道府県旗を一堂に集結した熱意のある行進に参加しました。

北方領土返還要求運動が全国一丸となって取り組む姿勢を示すことができたと思います。

1945年12月1日、当時の根室町長安藤石典氏が連合軍最高司令官マッカーサー元帥宛てに、北方領土についての陳情書を提出したのがこの返還運動の始まりです。

戦後80年が経過し、元島民の方は高齢となり、早期の課題解決が望まれます。

湧別・小清水に学ぶ
～教育と地域交通の未来～

福祉文教常任委員会

別海町の教育諸課題と住民の移動手段の在り方を探るため、湧別町、小清水町を視察してきました。

湧別町の義務教育学校では、9年間の一貫教育や地域連携を学び、本町で計画している新設校での教育課程編成のヒントを得ました。

小清水町の地域実践事業「KOSIMOタクシー」からは、実施に至った経緯や運転手登録、運営管理、課題や改善点などを学びました。

今回の視察を生かし、別海町の教育の充実と、より住みやすい町づくりを目指し、調査を進めていきます。

小清水町にて

湧別町にて

光進泉川花火大会を見学してきました

年の瀬に行われ今年で開催6年目となる、光進泉川花火大会に参加してきました。

コロナ禍に地域の若手有志らで始めたという花火大会は、今や町内外から600人以上もの人が集まる、年末の一大イベントさながらの盛り上がりを見せていました。

来場者に喜んでもらうため、内容を毎年工夫しており、今年は子ども手持ち花火、電子オルガン演奏など子どもも楽しめる内容でした。

その他、中山間サブ集落事業による乳製品の配布で、消費拡大運動も行っていました。

（文責　吉田委員）

べつかい協働のまちづくり補助金を活用

連載
第４回

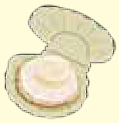
町民の皆さんの声を一緒に届けませんか?!

Let's go! 議会！
レッツゴー！

**今回のテーマは「常任委員会」です。
別海町議会は「委員会主義」を掲げ、委員会での調査や議論を重視してきました。今年度から常任委員会を２つに再編し、委員構成を８人へと見直しました。委員数が増えたことで、これまで以上に多様な視点と意見が集まり、より深い議論が行われるようになっています。
今回は総務産業常任委員会を詳しく紹介します。**

Q 常任委員会ってなにしてるの？

A 議案や町の課題を分野ごとに詳しく調べ、本会議での審議をより充実させるための準備を行っています。資料の確認や担当課からの説明、現場視察などを通して、私たちの暮らしに関わるテーマを一つ一つ丁寧に話し合っています。



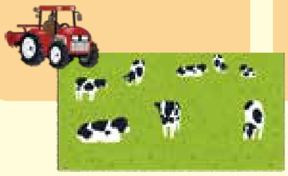
総務産業常任委員会ではこんなことを調べています

担当はどんな部署？

総務部
庁舎管理や防災、法令･例規、広報、町税、情報管理など

経営管理部
人事、財政、契約、公共施設管理など、町の運営に関わる業務など

産業振興部
農業や漁業､商工･観光、林業など



建設水道部
町道や橋りょう、除雪、土木工事、町営住宅・町有施設、上下水道など

総合政策部
総合計画、まちづくり、ふるさと納税、統計、地域創生、広聴活動など

委員会のながれ

委員会は２日間にわたることもあります！

※委員会では、「議員」ではなく「委員」と呼びます

事前調整
正副委員長会議
委員長・副委員長で行う。次回の委員会で調べる内容を事前に調整し、委員会の運営が円滑に進むよう必要事項を打ち合わせする。

→ 後日

協議・審査
常任委員会
役場の担当職員と委員で行う。議案や事業内容を把握するための説明を受け、質問や調査を行う。委員としての立場で内容を詳しく確認する。

→ 同日開催

振り返り
委員会協議会
常任委員会終了後、**委員のみ**で行う。振り返りを行い、懸念点や評価点などを協議し、委員会としての方向性をまとめる。

→ 同日開催

報告整理
正副委員長会議
委員長・副委員長で行う。委員会協議会で出た意見・懸念事項や評価点などをまとめ、協議内容を担当部署と情報共有する。

委員会では、調整・協議・調査・審査・振り返りを通して議論の質を高めています。
さらに、一般質問で扱われた議題も委員会で引き継ぎ、調査を進めています。
これからも、多角的な視点から丁寧な議論を重ね、より良い町政につなげていきます！

シリーズ
おじゃましま〜す

空から見る、わたしたちの別海
― 子どもたちへつなぐ熱気球の体験 ―

代表の木嶋　宏之 さん

雪に覆われた農村広場に、今年も色鮮やかな熱気球が静かに浮かび上がりました。今回で5回目を迎えたこのイベントは、回を重ねるごとに参加者が増え、内容も少しずつ充実してきました。

冬の空の下、順番を待つ子どもたちや家族の列は、この催しが町に根付きつつあることを物語っています。

このイベントを企画・運営しているのが、町内有志による「べつかいに熱気球をあげる会」です。現在のメンバーは6人。

子どもの幼稚園を通じて知り合った父親たちが中心となり、「子どもたちに特別な体験を届けたい」という共通の思いから活動を始めました。

きっかけはコロナ禍でした。外出や行事が制限され、子どもたちが我慢を強いられていた時期、人との接触が少なく、安全に楽しめる体験はできないかと模索する中で、熱気球に行き着いたといいます。

車で来場し、気球に乗り、空を体験して帰る。その流れが当時の状況にも合っていました。

気球はロープで係留され、上空からは別海の広大で平坦な大地を一望できます。川の蛇行や林の広がりなど、地上では気づきにくい景色に、子どもたちは目を輝かせます。

「きれいだった」「少し怖かったけれど楽しかった」。そんな感想が、活動を続ける励みになっています。

運営は、べつかい協働のまちづくり補助金や町内企業の協賛に支えられていますが、資金面は大きな課題です。一度途切れてしまえば再開が難しいからこそ、できる限り継続していきたいと考えています。

将来は、学校のグラウンドなどで子どもたちに体験してもらうなど、体験教育としての広がりも思い描いています。

空から自分の町を見る経験は、子どもたちの心に深く残ります。

この取り組みは、地域の思いに支えられながら、次の世代へと受け継がれようとしています。

令和８年第１回定例会は
３月９日(月)〜３月17日(火)
を予定しています

別海町議会
YouTube チャンネル

一般質問の傍聴にきてみませんか？
一般質問日
3月 11 日(水) 予定
お待ちしていま〜す !!

□令和８年２月１日発行／北海道別海町議会　□発行責任者／西原　浩　□編集／広報・広聴常任委員会
〒086-0205　北海道野付郡別海町別海常盤町280番地　TEL(0153)74-9854（直通）